



令和4年5月31日

各報道機関 御中

宮崎大学企画総務部  
総務広報課長

### 宮崎大学のトピックス（5月分）の配信について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は地域活性化の中核的役割を果たす大学として日々様々な活動を行っております。その活動の概要は、大学のウェブサイト上にトピックスとして掲載し、幅広く地域の皆様に見ていただけるようしているところです。

そのトピックスを月毎にまとめたものを報道機関の皆様にお配りし、大学の活動を知っていただくとともに、記事として取り上げていただき、より地域の皆様の目に届けたいと思っております。

つきましては、是非一読していただき、取材していただくようお願いいたします。取材にあたっての関係部署との調整・取り次ぎ等は総務広報課広報係にお申し付けください。

敬具

① 発信元

宮崎大学企画総務部総務広報課

TEL : 0985-58-7114 FAX : 0985-58-2886

## 宮崎大学最近のトピックス（令和4年5月分）

1. 医学部附属病院に広範囲除菌 紫外線照射除菌ロボットを導入
2. 中村周作教授（教育学部）が2022年度のアサヒグループ食・研究賞を受賞
3. 附属小学校に戦争体験を描いた絵画を寄贈いただきました
4. 令和4年度第1回教育・学生支援センター学生連絡協議会を開催
5. 農学部1年生向けに高校教員という仕事の魅力を紹介
6. 宮崎大学附属図書館にて「没後50年 川端康成と宮崎、南九州」展を実施
7. フロンティア科学総合研究センターの実験室がリニューアル
8. ミヤダイミライ塾「DXを学ぶ」を実施
9. 文部科学省情報ひろばにて宮崎大学と門川町の連携事業企画展示を開催

## 1. 医学部附属病院に広範囲除菌 紫外線照射除菌ロボットを導入

本学附属病院では、新型コロナウイルス感染症を含む病院内での感染予防のために自走式紫外線照射ロボットを導入し、2022年4月1日からは外来棟を使用していない夜間の時間帯に広範囲除菌することで外来棟における感染リスクを下げるという取り組みを行っている。この取り組みは、現場で働くスタッフからの感染対策に対する問題点や意見の聞き取り、各職種スタッフ・県内企業の協力により実現したもので、当病院を利用する患者さんおよび医療従事者が安心して働ける病院の環境作りを目指している。病室などの狭い範囲の紫外線照射除菌を行っている施設は増加しているが、当院のように外来棟全体までを除菌するような対応を行っている病院は国内になく、感染症対策の一つのモデルとなり得るものと思われる。



## 2. 中村周作教授（教育学部）が2022年度のアサヒグループ食・研究賞を受賞

教育学部の中村周作教授（社会科教育講座、地理）が、2022年度のアサヒグループ食・生活研究賞を受賞した。

本賞は、公益財団法人アサヒグループ学術振興財団から直近5年間（2016～20年）に研究助成を受けた研究者の中から選出されるもので、食・生活文化部門では、主に食に関する家政学系食物学、文化人類学、民族学、民俗学、歴史学、地理学などの研究者が含まれる。選考は、助成による研究成果及びそれが今日の研究にどのように活かされているかを記した文書と主要な業績の審査により行われた。中村教授の研究は、佐賀県を事例に、酒と魚料理を中心とする伝統的飲食文化について地理学の視点から地域別の飲食文化の特徴を類型化し可視化することで、地域伝統の飲食文化を保存・伝承することが、地域振興・地方創生という大きな社会課題の解決の一助となる示唆を与えており、消滅の危機にある伝統的飲食文化を地理学の視点から研究し、その地理的展開の持つ意味を解明した点が高く評価された。



### 3. 附属小学校に戦争体験を描いた絵画を寄贈いただきました

教育学部附属小学校では、宮崎市在住の画家、森山 修（二科会会友・二科宮崎支部長）様から、2021年11月に開かれた「米寿記念 森山修絵画回顧展」に出展された戦争体験を描いた絵画4枚を、母校である附属小学校へ寄贈したいとの申し出があり、寄贈いただきました。



教育学部附属小学校では毎年、太平洋戦争末期の宮崎空襲で犠牲になった、児童16人を供養する「いとし子 命の集い」を開催しており、今年の集い（5月11日開催）には、ご遺族のほかに当時6年生で下級生を空襲で亡くされた森山様にもお越しいただき、絵に込めた思いや平和への思いをお話しいただいた。児童たちは式典を通して、平和への誓いを新たにしました。

### 4. 令和4年度第1回教育・学生支援センター学生連絡協議会を開催

令和4年5月12日（木）、令和4年度第1回教育・学生支援センター学生連絡協議会が開催されました。この会議は、各学部の学生代表者4名程度選出され、学生目線から、大学の問題点を洗いだし、学生自らが検討し、解決していくという趣旨のもとに令和3年度に設置されました。今回は、鮫島学長から学生代表の井戸川拓真（いどがわたくま）さん（教育学部小中一貫教育コース小学校主免専攻3年）に委嘱状が手渡された後、学生さんからの意見を積極的に大学側に伝えてください、との挨拶がありました。



引き続き協議題に入り、本学が行っている修学支援事業について、学部ごとに意見交換を行い、代表者が発表しました。鮫島学長や新地理事が学生の声に耳を傾けられた後、たくさんの意見を聞かせていただいたことに謝辞を述べられ、一緒に宮崎大学をよくしていくためのアイデアをどんどん出してほしいと述べられました。

最後に、白上副センター長が、この協議会を学生主体で定期的に行っていきたいと述べられ、閉会となりました。

## 5. 農学部1年生向けに高校教員という仕事の魅力を紹介

令和4年5月16日（月）、基礎教育科目である「大学教育入門セミナー」において、佐々木未応氏（宮崎県教育庁教職員課 人材育成担当副主幹）を講師に迎え、「先生の仕事の魅力」と題した講話を農学部植物生産環境科学科1年生が聴講した。



佐々木氏の通算27年の教員生活のなかで、日本史の教諭としての経験や野球部顧問としての経験などを交えながら、「全国的に教員が不足しているのが現状」「子どもと共に学び、共に感動し、未来を創る仕事である教師という職業を将来の選択肢の一つとして持ってもらいたい」と学生に訴えかけられた。

農学部では、社会から求められる人材を輩出できるように組織的なキャリア教育を展開しており、教員養成課程を持つ学科に所属するすべての1年生が佐々木氏の講話を7月までに聴講する。なお、農学部の教員養成課程では、高等学校教諭1種免許状（農業・水産）および高等学校教諭1種免許状（理科）が取得できる（獣医学科を除く）。

## 6. 宮崎大学附属図書館にて「没後50年 川端康成と宮崎、南九州」展を実施

令和4年5月17日（火）から、宮崎大学木花キャンパス附属図書館において、日本人として初めてノーベル文学賞を受賞した川端康成の没後50年という節目に合わせて「没後50年 川端康成と宮崎、南九州」展（協力：株式会社アイロード）を開催している。



今回は、図書館が所蔵している川端文学の代表作のほかに、戦後の川端康成に影響を与えたと考えられる鹿屋基地での体験などを盛り込んだ『生命の筈（いのちのこだま）川端康成と「特攻」』、川端が宮崎県に滞在したときの思い出を案内者であった渡辺氏がまとめた『夕日に魅せられていた川端康成と日向路』などを写真とともに展示している。期間は6月15日（水）まで。



## 7. フロンティア科学総合研究センターの実験室がリニューアル

令和4年5月20日（金）、宮崎大学フロンティア科学総合研究センター（木花キャンパス）では、新型コロナウイルスをはじめとする各種ウイルスに関する研究設備を拡充させることを目的に、BSL3実験室（Biosafety Level 3）を改修し、内覧会を実施した。



今回の改修は、令和3年10月から約半年間かけて行われ、総工費は約6千万円。室内減圧構造、非常電源の設置、防犯カメラ等の設置など実験室全体を再整備するとともに各種機器などを一新したほか、ISOゲージを設置したことで、厳格に管理された一つの実験室内でマウスやラットを用いた検証性の高い研究および動物実験が可能となった。また、in vivo イメージング装置をBSL3内に設置することで、危険なウイルスの動態を生体動物内で観察するという高度な実験も可能となった。

## 8. ミヤダイミライ塾「DXを学ぶ」を実施

令和4年5月24日（火）から、対面形式とオンライン形式を交えたハイブリッド形式でミヤダイミライ塾「DXを学ぶ」を10回シリーズで実施しています。

本講座は、最近よく耳にする「DX（デジタルトランスフォーメーション）」について、株式会社デンサン取締役の橋口義史氏を講師に迎え、宮崎大学数理・データサイエンス部会の共催、宮崎県や宮崎県工業会、宮崎県商工会議所連合会の後援を受けて実施するもので、学生のみならず一般の方も無料で受講することができます。



第1回目は、「DX概論」と題して、DXの定義や国内外企業の取組状況などを紹介するとともに、目指すべき競争優位とはどのような視点・手法で整理していくべきか、DXにひそむリスクなどの基礎的なことについてお話しいただき、地域デザイン棟会場とオンライン形式を含めて100名以上の方に参加いただきました。

## 9. 文部科学省情報ひろばにて宮崎大学と門川町の連携事業企画展示を開催

令和4年5月27日（金）から令和4年7月12日（火）にかけて、文部科学省情報ひろば（旧文部省庁舎 3階企画展示室）において、企画展示「大学連携による地域資源を活かした地方創成～さかなのまち門川町の豊かな海が見える化～」を開始しました。



宮崎大学では、門川町にしかない魅力を学術的な視点から発見し、地域住民と協同で門川町の魅力を磨き上げると同時に、次世代にその魅力を引き継ぐ取組を行うことなどを目的として、2017年に包括連携協定を締結。当初は3つ事業から開始しましたが、現在の連携事業は多岐に及び、最も核心部分として取り組んできた事業である「さかなのまち門川町の豊かな海が見える化プロジェクト」では、事業開始から3年目の2019年に、地域で水揚げされた515種を掲載した「門川の魚図鑑」が完成し、同町のふるさと納税の返礼品としても採用されるなど、地域住民に愛される図鑑が完成しました。

これらの取り組みは、「さかなのまち」として知られてきた門川町（湾）周辺の魚類多様性を学術的に証明するとともに、門川町の魅力を発信することに大きく貢献するとともに、地域の若い世代への郷土愛をはぐくむ教育にも大きく貢献しており、大学と市町村連携のロールモデルとなっています。